

学術調査報告書

2008 年 3 月 24 日

(フリガナ)	チョウ キーウン	入学年度	2005 年度
申請者名	趙 基銀	学年	3

研究題目	在日朝鮮人と韓国民主化運動 －1970～80 年代における韓民統の活動を中心に
主任指導教員	米谷 匡史

(1) 学術調査の目的

今回の学術調査の主要な目的は、博士論文執筆のための資料収集である。修士論文では、70 年代の韓国民主化運動を支持・支援した在日朝鮮人の活動の流れとその政治的・社会的・思想的背景をみるとともに、在日朝鮮人民主団体である韓国民主回復統一促進国民会議日本本部（以下、韓民統）活動を中心に考察した。博士論文では、在日朝鮮人の民主化運動の中心になった韓民統の活動を探る。具体的に言うと、1970～80 年代に重点をおきながら、韓民統と海外在住韓国人の民主化運動勢力との連帯の実態や流れ、その連帯の間に生じた葛藤などを探っていく。

博士論文の主な目的は、この作業を通じて韓国民主化運動の多様性と民主化運動勢力同士との連帯の実態・それら勢力の間の葛藤はどのようなものであったか、そして本国（韓国）の圧力、本国のイデオロギー、国家主義などが彼らの連帯にどのように影響を及ぼしたのかを考察することである。

その際、海外在住韓国人民主化勢力の活動を詳細にみる必要があるが、その地域的分布が複数の国に及んでおり、それらの団体や当事者に関する資料を探し、整理・分析すること自体が多く時間を要する。そのため、今までは日本以外の海外在住韓国人の民主化運動との関連部分の調査は困難であった。しかし、数年前に 70～80 年代に海外で韓国民主化運動を行った人々（韓国・日本・アメリカ・ヨーロッパなどの地域を中心に形成されていたキリスト教ネットワークに基づいて活動していたキリスト関係者）が韓国歴史編纂委員会に当時の資料を寄贈した。韓国歴史編纂委員会はこれを受け、資料を整理し、2005 年度に資料集として出版した。それらの資料は、当時活動していた人々の所有していたもので

あるので、かなり詳細な内容である。

韓国国内の民主化運動に関する研究は80年代後半の民主化に伴い、盛んに行われるようになっていたため、かなりの研究蓄積があるが、海外在住韓国人の民主化運動に関する研究はキリスト教的な視点が中心になる研究が主をなしており、その研究蓄積もさほど多くはなかった。しかし最近、海外における民主化運動に関する研究論文が多数出されている。特に、ヨーロッパにおける民主化運動を研究した論文が、韓国の国立中央図書館にある学位論文室と国会図書館に所蔵されており、今回は国立中央図書館の論文を閲覧した。

これらの資料の分析を綿密に行い、その成果を学術誌にまず発表して、それに基づいて博士論文を書くのが2008年度の計画である。以上に書いたように海外における韓国民主化運動に関する研究は、キリスト教的視点が強く、そして地域的にはヨーロッパ中心の研究はゆっくりではあるが、着実に成されてきた。しかし、日本における民主化運動に関する研究は、体系的かつ学術的な研究があまり成されてこなかった。また、日本地域の在日朝鮮人の活動と海外在住民主化運動勢力との連帯もあまり研究されてこなかった。そのため、1次・2次資料の発掘・整理・分析が何より重要である。したがって、今回の学術調査の目的は、日本における民主化運動に関する、体系的で学術的な研究を行い、日本地域の在日朝鮮人の活動と海外在住民主化運動勢力との連帯を研究するための、1次・2次資料の調査および収集とした。

(2) 調査実施地および期間

①実施期間：2008年1月25日～2月2日(9日間)

：渡航日の二日間を除くと実質的な調査期間は、1月26日から2月1日までの7日間である。

②実施国家及び地域：韓国、ソウルと果川

- ・ 韓国国史編纂委員会：京畿道の果川に位置している。韓国国史編纂委員会は、1946年につくられた国家機関として、史料の収集編纂と国史の普及の活動を行っている。
- ・ 学位論文室はソウルの西草区にある国立中央図書館内にある。国立中央図書館は、1945年10月に「国立図書館」として開館された。そして、1999年に分館を「学位論文館」として再開館した。この学位論文館を「学位論文室」として本館に移転し

た。韓国内で出された修士・博士論文などの学術論文を所蔵している。

- ・ 民主化運動記念事業会：ソウルの中区に位置しており、2001年6月28日に作られた「民主化運動記念事業会法」により設立された。主な活動は、民主化運動の歴史整理のための資料収集・保存・データベース化・管理・展示などである。2007年には、『民主主義民主化運動図書目録』を刊行している。

③実施機関：韓国国史編纂委員会、学位論文室（国立中央図書館）、民主化運動記念事業会

：当初、調査実施対象の機関は韓国国史編纂委員会、学位論文室、国会図書館の3箇所を予定していた。しかし、対象資料を実際現地で見たと内容が自分の予想から外れているものがあつたので国会図書館は調査対象から急遽外した。その代わりに、民主化運動記念事業会を調査対象にした。

(3) 学術調査の具体的な実施内容

①国史編纂委員会の『韓国民民主化運動資料目録集』（1月28日～30日）

国史編纂委員会は、2001年から海外所在韓国史資料収集・移転事業の一環として海外民主化運動の資料を収集してきた。約8万4千件の資料が収集されており、そのうち約6万8千件の32万3千枚の資料を公開している。その一連の収集の結果として刊行されたのが『韓国民民主化運動資料目録1、2』の民主化運動資料目録集である。

この目録集は、時期的には1927年～2000年までの、地域的には日本、アメリカ、ヨーロッパの民主化運動に関する資料が載っている。特に、団体が出している機関紙、パンフレット、チラシなど、一次資料に成り得るものがかなりある。

この目録集は、韓国民民主化キリスト者同志会の資料、世界教会協議会図書館所蔵資料、北米韓国民民主化運動資料で構成されている（注；『韓国民民主化運動資料目録集』の解題）。目録集は、韓国民民主化キリスト者同志会から委託された資料が大半を占めている。韓国民民主化キリスト者同志会とは、元々海外韓国人特にキリスト者が中心になって組織され、韓国民民主化運動を行った団体である。

当初、この資料を時期（年度）別、地域別、団体別、個人・事件・団体別に分けてみる予定であった。しかし、目録集は年度別に大まかに分けられているだけで、地域・団体・人物などの詳細な分け方がされていなかった。そのため、自分の対象としていた時期をみ

て年度、月、日に分けた。また、時代別に70、80、90年代に分けてみた（90年代まで見るのは、70・80年代の問題が90年代にも影響を及ぼしているため70、80年代の民主化運動などの評価に不可欠であるからである）。

そして、地域別に日本、アメリカ、ヨーロッパの三つの地域に分けてみた。さらに、団体と個人は詳しく分けてみる必要があったが、地域的な分類を優先した。しかし、地域に基づいて細かく分類するには多くの時間を要するため、必要な時代（70～90年代）の部分をコピーするのみに留まった。

②国立中央図書館（1月27日、31日）

主に、学位論文と宗教雑誌とその他の学術雑誌や政治性を帯びている雑誌に掲載された、海外における民主化運動に関する論文を収集した。学位論文は図書館の7階にある学位論文室、学術雑誌は3階にて閲覧することができる。まず、27日には学位論文室で対象の論文を閲覧し、必要な部分のコピーをとった。そして、3階にある連続刊行室では日本で事前に調べておいた宗教雑誌から民主化運動に関わる論文をコピーした。

宗教雑誌は、キリスト関連の雑誌としてプロテスタント系とカトリック系の雑誌に分かれていた。主に閲覧した雑誌は、『韓国キリスト教と歴史』、『キリスト教思想』、『神学思想』などである。これらの雑誌は、韓国民主化運動におけるキリスト教の役割や運動の経緯、運動の背景にあるキリスト教思想などに関する論文が主に掲載されていた。つまり、宗教的観点から韓国民主化運動をみるという方向性をもっていた。

そして、その他の雑誌として『経済と社会』、『創作と批評』、『月刊マル（言葉）』、『OKtimes』などの雑誌を調査対象とした。これらの雑誌は前述の雑誌と違い、海外在住韓国人のアイデンティティと本国との関係を中心とした観点で韓国民主化運動をみた。

31日は、引き続き宗教雑誌から論文をコピーした後、その他の雑誌に掲載されている韓国内の民主化運動に関する論文のコピーをとった。

③民主化運動記念事業会（1月31日、2月1日）

新たに調査対象機関とした民主化運動記念事業会（以下、事業会）では、日本とアメリカにおける韓国民主化運動に関する1次資料を手に入れることができた。事業会は文書資料室を設けており、資料室では資料検索と閲覧ができる。ここで、日本とアメリカの韓国

民主運動を展開した団体の資料を手に入れることができた。

取り扱われている資料は、韓民統の日本本部とアメリカ本部などの団体関連資料とその他の北米中心の資料が多かった。また、北米における民主化運動の流れがみえる雑誌である『第三日』の一部をコピーすることができた。

しかしながら、所蔵されている韓国民主化運動に関する全体的な資料のうち、海外民主化運動に関する資料が占める割合は低かった。それは事業会の問題というより、今までの韓国内の、海外における民主化運動に関する研究の度合いが低かったことに起因すると考える。

(4) 学術調査の結果およびそれに基づく考察

今回の学術調査は、韓国内の「海外における民主化運動」に関する資料を調べるのが目的であった。そして自分の研究テーマに関わる重要な資料を手に入れることができた。しかし、国史編纂委員会の資料においては、一次資料にまでたどることができず目録集のコピーにとどまった。それは自分の予想以上に目録集の量が多かったことと、目録集で取られていた分類方法が時代（特に年度別）という分類の方法のみであったことが原因である。目録集の資料名には大分類と小分類された番号をつけられていたが、それは細かい資料を申請する時の最終的な手段として用いることしかできず、目録集の資料名自体を見るときは役に立たなかった。今後は目録集に載っている資料をチェックし、自分の目標としている地域、団体、事件などに詳しく分類しておくことが必要となる。この作業は、次回に資料を手に入れる時、時間と労力を省くことになると思う。ただ資料の量が多いため、いかに早く分類するかが重要である。国史編纂委員会の資料の多くはネットで公開されているので、インターネットで公開されている資料を調べることで資料収集の時間を短縮することができる。

国史編纂委員会の資料以外は、順調に手に入れることができた。前述のように、海外における韓国民主化運動はキリスト教のネットワークに基づいた形で行われたケースが多い。したがって、資料はキリスト教的視点に基づく研究が多かった。韓国社会においてもキリスト教はプロテスタントとカトリックとに分かれており、民主化運動に関する研究もその両側の立場からなされてきた。

しかし今回の調査では民主化運動の新しい流れをみることができた。それは、日本にお

ける韓国民主化運動の分析が在日朝鮮人のアイデンティティという視点と絡んでなされたことである。それは、韓国民主化運動史研究において、運動史整理という側面を持つだけでなく、在日朝鮮人の特殊な立場性が意識されはじめたということの意味する。

この背景には、現在韓国の学界や社会が在日朝鮮人という存在に注目している動きがあることを言わざるを得ない。今までの在日朝鮮人に対する研究は、主に生活史やアイデンティティ、差別という視点からなされてきた。これらの視点が韓国民主化運動という特殊な状況と結びつけて研究された新しい流れをみることができたことは今回の調査の大きい成果ともいえる。

ただし、このような研究は3年前に私自身が修士論文ですでに試みたものであったため内容的には新しいものを発見することはできなかった。とはいえ、韓国内の在日朝鮮人研究の内容が多様化しつつあり、民主化運動においても研究の視点が幅広くなってきたことは注目に値する。

今までの研究に基づいて考えても海外における韓国民主化運動は、宗教的視点と海外在住韓国人のアイデンティティを中心にした視点で研究されてきた部分が多い。それを今回の調査で再確認した。

実際、韓国民主化運動はキリスト教の運動に負ったところが多い。そのため、韓国民主化運動研究に関してもキリスト教は重要視されており、かなりの研究蓄積もある。今回の調査で、海外における韓国民主化運動における研究にもその状況が反映されていることが確認された。実際、国史編纂委員会の資料や宗教雑誌に載っている資料や研究成果はキリスト教的な視点がかかなり強く、量的にも多い。このようにキリスト教的視点やその関連団体の韓国民主化運動をみることは、民主化運動を考える際の運動史や思想的多様性などをみる際にとっても重要である。

しかし、今回収集した資料では海外在住韓国人というカテゴリで在日朝鮮人の運動を語っているのが殆どであった。このような研究は、多様性の面では評価できるとしても在日朝鮮人の運動を分析する際には不十分であると思われる。なぜならば、日本における在日朝鮮人の韓国民主化運動を研究し、分析するときは宗教的な観点では分からないことが多いからである。例えば、前記のように在日朝鮮人の立場性はもちろん、アイデンティティ、本国の政治的状況（南北分断、独裁政治、イデオロギー問題など）、本国との関係、日本との関係を慎重に考慮していかないと、在日朝鮮人の韓国民主化運動への関わり方を捉える

ための思想的背景、運動の展開、日本以外の海外在住韓国人との連帯・分裂などの研究が不十分になる虞がある。何より重要なのは、日本にいる在日朝鮮人社会が韓国側と北朝鮮側に分かれていることで緊張感が他の地域より予想以上に高いことである。このようなことと韓国民主化運動の関連性があまり丁寧に書かれていないのが残念である。

今後の研究においては、上記したような在日朝鮮人の状況を丁寧に盛り込みながら運動史として整理、分析することが何より大事であろう。このような点に注意すれば在日朝鮮人の韓国民主化運動研究は、在日朝鮮人にとっても韓国民主化運動史にとっても貴重な史料になると思われる。

(5) 調査地・文書館建物などの写真

国史編纂委員会； <http://www.history.go.kr/>



国立中央図書館； <http://www.nl.go.kr/>

(現在、建物の補修中におき外観を取ることはできなかった。

下の写真は学位論文室である。)

